

磯野清氏 勲五等に叙せられる

技術部化学課

元地質調査所技術部化学課主任研究官の磯野清さんが昭和52年春の叙勲で勲五等瑞宝章を授与され 5月11日に伝達式が行われましたが そのあと夫人同伴で地質調査所に見えられ所長はじめ関係者に挨拶されました。今回の受賞に対し心からお祝いを申し上げます。

磯野さんは 大正7年農商務省鉱山局地質調査所に入所されて以来職を辞された昭和42年までの40有余年にわたり一貫して地質調査所に勤務され 専門の化学 とくに分析化学の知識と経験を最高度に活用して国内及び海外の金属・非金属 天然ガス等の資源の開発に大きく貢献するとともに 国の工業標準化事業等にも多くの功績を残されました。

氏が入所された当時は工業原料鉱物調査が開始され早速本事業に参画し 各種鉱石類の品位を決定するための化学分析の部門を担当 きわめて多数の試料を迅速かつ正確な分析を行ない 時局の要請にこたえられました。

第二次大戦中は国内資源はもとより南方諸地域 満州支那地域等の鉱物資源開発調査に関与し 化学分析部門で日夜精力的に活躍されました。 また 戦後は機材不

足にもかかわらず 自らの手で技術を開発したり 創意工夫をこらすなど多くの困難を克服し 炭田 天然ガス 金属・非金属資源等の野外調査 化学分析に取り組みその重責を果されました。

昭和30年から退官されるまでの12年間は 幅広い知見と優れた指導性を発揮して 課員を指導するとともに 石灰石鉱業協会 窯業協会等の化学分析法の講習会の講師として業界の指導にもあたられました。 また 日本工業規格の標準化業務にも積極的に参画し 鉱石中の銅 ニッケル コバルト 錫 タングステン アンチモン等の多成分についてその分析法の検討を行ない 日本工業規格分析方法の確立に大きな貢献をなされました。

さらに 石灰石 ドロマイト マグネシアクリンカーの分析法に関して 当時開発されて間もないキレート有機試薬をいち早く分析法に取り入れ 従来の重量法に比してきわめて精度が高く かつ分析所要時間の短縮をはかりました。 これらの成果は学会 業会の関係者に広く利用されており 氏の果した役割は大きいものがあります。



磯野清氏御夫妻



授与された勲記

そのほか 鉱物学的研究に関しても鉱物学研究者と共同でマンガン鉱物 ラテライトなどについて研究を行ない わが国における吉村石の確認 ラテライトを構成する鉱物などを明らかにし ラテライト資源の開発に多くの貢献をなされました。

以上 氏の御事績の一端を申し述べましたが これらの業績が日本分析化学会にも認められ 昭和36年に同学会より有功賞が授与されております。

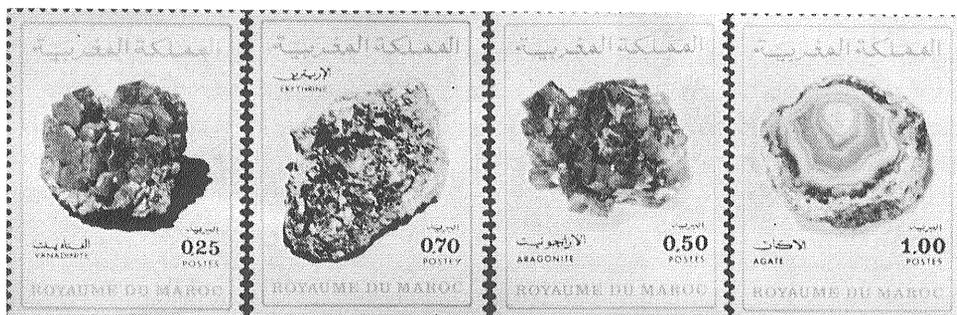
最近の磯野さんは相変わらずお元気ですが 聞くところ

によりますと 今年は金婚式を迎えられるとのこと 重ねてのお慶びに対し 改めて衷心よりお祝いを申し上げます。 最後になりましたが 御夫妻の今後のご健康をお祈り申し上げます。

現住所 東京都世田谷区中町2-17-22

電話 (03) 702-4438

地学
と切手



モロッコの鉱石切手

P. Q.

モロッコは アフリカ北部にある王国で 19世紀以来フランスとスペインの保護領となっていたが 1956年に両者から独立して王国となった。北は地中海に面しジブラルタル海峡をへだててスペインと対している。北部はアトラス山脈が走り 南はサハラ砂漠となる。産業は農漁業が主であるが 鉱業としては リン鉱石・鉄・マンガンを生産し とくにリンは埋蔵量世界第1位生産は第2 (1965年に970万トン) である。

切手は1970年と74年に2種ずつ発行された。

0.25 dh : 褐鉛鉱 (Vanadinite)

$Pb_5(VO_4)_3Cl$ 六方晶系 短~長柱状結晶 ぜい弱 硬度2.75~3 比重6.88 亜樹脂状光沢 ルビー赤から褐赤色と種々の色を呈する。主に鉛鉱床の酸化帯にみられる二次鉱物で バナジウムと鉛の鉱石となる。化学組成のバナジウムから命名された。

0.70 dh : コバルト華 (Erithrite)

$(Co,Ni)_3(AsO_4)_2 \cdot 8H_2O$ 単斜晶系 針状結晶の放射集合体 球状 腎臓状 土状皮殻等をなす。硬度1.5~2.5 比重2.95 ガラス~真球光沢 緋~桃赤色。二次鉱物として輝コバルト鉱 砒コバルト鉱などを含む鉱床の酸化帯に生成。名称はギリシア語の erythrose (紅色) にちなむ。

0.50 dh : あられ石 (Aragonite)

$CaCO_3$ 斜方晶系 方解石の異像 硬度3.5~4 比重2.947

1.00 dh : メノウ (Agate)

玉髄の一種 玉髄とは石英の微小結晶が網目状に集まり 超顕微鏡的小孔を持つ珪酸の緻密集合体である。メノウはこのうち色が帯状または同心円状に配列するものをいう。通常火山岩の晶洞を充てんして産出。